

令和 6 年度 名取市地域学校協働活動運営委員会概要記録

○日時	令和 7 年 2 月 21 日（金）午後 2 時より
○場所	市教委 第 4 会議室
○出席者（7 名）	橋浦ふさ江委員、佐々木健太郎委員、久米智美委員、洞口のり子委員 伊藤宗男委員、小沢静子委員、矢澤ユキ江委員
○欠席者（2 名）	紙谷ゆたか委員、入間川徹委員
○事務局出席者	教育委員会 教 育 長 瀧澤 信雄 教育部長 齋藤 正光 生涯学習課 課 長 佐藤 徹也 〃 課長補佐兼青少年係長 菊地 栄一 〃 社会教育主事 小池 郁江
○傍聴人	なし

会 議 概 要

1 開 会 進行：菊地補佐 14：00～

瀧澤教育長

年度末のお忙しい中、寒い中、お集まりいただき感謝申し上げます。今年度も残りあとひと月を残すのみになった。それぞれの学校で本部を中心に特徴のあるユニークな活動が展開されている。多くの成果を上げている。ただ、様々な課題もあると思う。委員の皆さんには忌憚のない意見を頂戴したい。

2 あいさつ

伊藤委員長

委員の皆さんはこの会議だけではなく地域でもいろいろ活躍されている。年度末ということで様々整理することもあると思う。忙しい中お集まりいただき感謝申し上げます。今年度も年度末の振り返りの時期となった。次の年への見通しをつくる時期となった。何らかの形で地元の学校で協働活動の一端を担っていると思う。私も、学校に呼ばれたり進んで訪れたりしている。先日、増田西小の子どもから手紙と写真が届いた。子ども達とまち探検に行ったが、この授業は昔から続いており、そのお礼で「ありがとうございます」と渡された。思い出になるので、今日持ってきた。委員の皆さんもいろいろな形で関わっているのではないかな。一つ一つの行事が継続されていき、その学校の特色になり、つながっている感じがする。今年から、学校運営協議会を教育委員会が設置するようになり、これから導入が広がる方向で動いていくと思う。それを頭に入れながら話し合っていきたい。異動期に入っている。4 月からどうなるか心配もあると思うが継続して活動できるよう願いながら、特色ある学校づくりをしていけるよう

な話し合いを皆さんとしていきたい。

会議の成立確認

名取市地域学校運営委員会設置要綱第6条第2項により、委員過半数の出席を確認し、会議成立を宣言した。

会議公開の確認

名取市審議会等の会議の公開に関する要綱第2条の規定により、公開の対象となる旨告げる。傍聴席を設けていたが、本日の傍聴者はなし。非公開の議事は予定していないが、非開示情報が含まれる内容となった場合、会議に諮り決定していくことを告げた。

3 報告

名取市地域学校協働活動運営委員会設置要綱第6条第1項により、伊藤委員長が議長となり進行する。

伊藤委員長

それでは、報告に入る。P 3 各学校区の状況について、事務局から報告願います。

事務局（小池社教主事）

（各地に出向いて写真に収めたものをテレビに投影し紹介した。）

実際には、もっとたくさんの事業が各地で行われており、各本部が地域の特色に合った活動を展開している。今年の特徴は、他の本部で行われている事業を取り入れた活動の様子が見られた。例えば、那智が丘地区での高館音頭学習、一中のキャリアセミナーなど。さらに、様々な組合、企業とのつながりや児童センター、公民館との連携が進んでいる。例えば、下増田児童センターまつりと公民館事業、協働本部との連携事業。セリ出荷組合などとの連携。

今年度からは、モデル校として館腰小学校でコミュニティ・スクールを導入している。それに関しては、後ほど紹介する。

第二中学校区の協働本部事業「仕事博覧会」は、「キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体文部科学大臣表彰」の受賞が決まった。

現在、国・県への事業報告書作成を各協働本部に依頼中。その際添付される事業内容と合わせて、令和6年度地域学校協働活動実践事例集を作成予定である。

委員長

令和6年度事業概要について、事務局より報告があったが、委員の皆さんから感想等あるか。

洞口委員

孫が児童センターを利用している。公民館と児童センター、市の男女共同参画事業との連携など、一緒にいろんなことをやっている。地域みなさんも一緒にするプチお祭りなどもある。子ども達も地域の人とお話したり、よそから来ている人でも公民館を利用していた人が、その様子を見たり聞いたり、一緒に混ざったりしている。すごくコミュニケーションを取るのにはいい感じになっている。

4. 協議

委員長

それでは続いてP 4 4. 協議にうつる。(1) 今年度の振り返りについて事務局から説明願いたい。

事務局 (小池)

本部、学校、公民館に依頼して回答いただいている協働活動の振り返りをまとめたものをP 4に掲載した。

①の今年度の活動の成果・手応えとしては、本部・公民館、いずれも効果や成果を感じている。実際に、コーディネートしている本部の方が、より効果や成果を感じていることがうかがえる。

その中で、地域づくりの担い手の育成に関しては、効果が表れるまで時間がかかると予想される。関わりの中で育つ子どもの成長を見守りつつ、焦らず様子を見守りたい。

P 5の学校教員への国の調査では、おおむね数値が昨年度より上昇している。特に、地域への理解・関心、教員の負担軽減、地域の教育力、地域の活性化の数値が伸びている。数値は少ないものの、生徒指導への効果を感じる学校が見られるようになった。

P 6②③は公民館に関わる質問項目。引き続き、公民館も協働本部との連携、活動への支援を行っている。公民館自身も子どもを対象とした事業や学校と連携した事業を展開するようになってきている。例えば、増田公民館「夏休み子ども体験」、館腰公民館「館腰住民フェスティバル」、高館公民館「新春こどもまつり」その他、ニュースポーツ体験など。

④は協働活動の浸透についての質問項目。本部・学校の回答では、学校との関わりがある住民や自治会、健全育成会などの中では、以前に比べ浸透してきていることがうかがえる。しかし、P 7に掲載したが、市民意識調査の結果では、認知度は36.4%にとどまっている。市民全体に活動が周知されていないことが分かる。「参加したこともなく、今後も参加したくない」と回答した割合も高い。活動を知らないために、意欲がわからないことが予想されるので、さらなる周知が必要だと考えられる。

自由記述としては、学校からの感謝の記述がみられる。また、担い手不足の問題や、社会の変化などに関する記述がみられた。

委員長

事務局から(1)今年度の振り返りについて説明された。皆さんから意見や質問をいただきたい。

小沢委員

この委員会に参加するようになって、何かと広報や市内に配布されるものなど見るようになった。この地域学校協働活動のことが載っているなあと意識してみるようになった。市民の4割にしか周知されていないということだったので、今後、多くの人にさらに知ってもらえるようになればいいと思う。担い手の育成の厳しさとあったが、活動されている方の年代は？

事務局（小池）

地域コーディネーターに限っては小学生のお子さんがいらっしゃる方は1名、中学生のお子さんがいらっしゃる方は2から3名。他の方はすでに子育てが終わっている。また、仕事をしている方もいるが、引退されている方もいる。だいぶ高齢の方が担っている。本部長さんもだいぶ高齢になっている。後ほど話をするが、なかなか次が見つからないという話は聞く。

矢澤委員

今話を聞いてP7の市民意識調査のグラフを見ると「参加したくも無く、今後も参加したくない」という方が半数近くもいるということで、気持ちは分からなくもない。あまり知らない場所に行くことや、慣れてないところには行きにくいなど、負担感が強いのかと想像できる。行ってみるとよかったと思ったり明るい気持ちになったりするのだろうと思う。そこをできるだけハードルをなくしていくにはどうしたらよいかと思った。自由記述にある「家庭環境の変化と核化、子育ての偏りや道理の欠落等を感じる。」とはどういうことか、もし分かれば教えてほしい。

事務局（小池）

書かれていたものをそのまま転記したので、直接聞いた話ではない。また、質問に沿った回答になっているかも分からない。例えば、前だったらPTAの方がされてきたことが、若い方の仕事が忙しいということでなかなか活動にも参加できないことが多く、なぜだろうと思う方もいらっしゃる。実際に協働活動をしている方もどうしたらいいのかなあと感じていらっしゃる。また、昔の子育ての様子と今の子育ての様子が違うのではないかと感じている方もいる。現在子どもがいる家庭は全世帯の2割、それ以外の8割は子どもがいない世帯ということで、地域の方々が子どものいる家庭の様子が想像できないということも耳にする。朝ごはんを食べずに登校する子がいることなどいろいろ思うところがあるのかもしれない。書いた方は、学校との関係作りができている方なので、先生方の負担なども感じて書かれたのではないかな。

佐々木委員

P5「国が学校に対して、実施している地域学校協働活動の実施状況に関する調査」だが、国が作成している質問なので、市としてはタッチできない質問だろう。その下のグラフの経過を見ると分かることがたくさんある。おおむね右肩上がり。コロナ禍にスタートということで、だんだん活動が拡大していく中で、いろいろなことが進んでいるという全体の特徴がある。例えば知的好奇心は大きく上がっている。おそらく活動のバ

リエーションが増えてきて子ども達が色々な体験活動ができるようになったという背景があるのだと思う。しかし、やはり運動意欲と生徒指導はどうしても気になる。聞き方も悪いのではないかと思うが、市として何か手を加えていく必要性を感じるのか聞きたい。

また、経年の変化は色々な手掛かりになる。P4の「①今年度の活動の成果・手応え」は市で作った質問ならば、こちらも経年変化がみられると今後の指針の手掛かりになる。さらに、P5の質問項目の内容は、子ども目線で子どもにとってどんな力や資質が効果的かまで突っ込んだ質問になっているのだろう。これに対応して、地域がどう捉え評価しているのか合わせた質問をすると、先生方が感じているものと地域の方が実感しているものが対応しているのか、乖離しているのか見ていける。今後の方針になるのではないか。

もし、P4に関して、昨年度と比較して経年の変化があるようなものがあるのであれば、思い出せる範囲で教えてほしい。

事務局（小池）

P4の質問に関しは、「今年度の手応え、効果はどうか」という形で質問している。おおむね昨年度と傾向は変わらないが、昨年度と比べて昨年度と同じか、変わらないと本部が捉えた場合、「どちらかといえば成果や手応えがあった」「以前とあまり変化は感じられない」という回答になる。昨年度と比較したときに「大きな成果や効果」を示す赤が減り、「どちらかといえば」というピンクの色が増えた印象はあるが、大きく変化が見られたところはない。

佐々木委員

継続しているということが大切なので、変化を捉えられるような聞き方や選択肢があってもいいと思う。

橋浦委員

私の住んでいる閑上地区は協働の活動を知らない人が本当に多いと思う。かかわっている人は一部の人。閑上小中学校の学区が名取市全域でPTAもできていない。協働活動にかかわっている人たちは年配で、昔遊びなどいろいろなことで足しげく学校に通っている。餅つきなど公民館にも手伝ってもらいながら様々な活動をしているが、確かに広報的には声がけがなされていない。ある一部だけで動いていて、知らせ方の工夫が必要だと思う。広報に学校ごとの活動の紹介が掲載されているが、みなさんがどう捉え、どう理解しているのか。もう少し学校にも住民にも何らかの方法で協働活動の意義を知らしめるような方法はないのかと思う。

洞口委員

運動意欲に効果があったと記入した学校がないのは気になっていた。地域の年配の方が協働本部の活動をしているということで、活動の内容が地域の活性化や、郷土・地域を知ってもらおうというものになりがちである。公民館の子ども向けの企画も同様の働きかけが多くなる。そう考えると、どうしても運動意欲の項目が低い結果になるのでは

ないか。また、中学校の部活動に関しても、指導する人が教員から地域の人に代わっていく流れである。このことに関しては難しい課題だと感じる。

久米委員

久しぶりに地域の班長が回ってきた。久々に地域の会議に出て、以前よりマニュアル化されていて驚いた。いろいろな行事をするにあたり、人が足りないと感じていたが、ここまでマニュアル化されていたら誰もやりたくないだろうと感じた。育成会にも携わっているが、先日会で餅つきをした。コロナ禍で5年近く行事をしていない。小学校で考えると1年生から6年生までしていないことになる。子どもの1/4しか参加しなかった。以前は、学校のほぼ全員参加していたのに、餅つきが始まった当初に戻ったようだ。ただ、イベントが終わった際に「楽しかった。」と言っていたので、来年度以降また子どもが増えるのかもしれない。期待したい。

最初に話に出たが継続の話になるが、この時期にはこの行事があるという継続感があると集客につながると思う。ただ、それをサポートする役員、PTA不足はひしひしと感じる。協力的でないというのが、まず第一。来た時に何をしたいかわからない人がほとんど。昔だったら、料理をふるまう際に、材料を切るだけでも地域、お母さんたち同士の交流になった。しかし、コロナ禍で縮小されているうちに手伝いがいなくなってしまった。地域交流やお母さんたちの交流の場が減って、とっかかりが昔と変わった。楽しむ感覚が違う。地域の交流を求めている。行事自体の参加が楽しいを目指して行うしかないが、やり方を変えないといけない。

橋浦委員

閑上でも餅つきをした。公民館と連携し大々的に行った。他の地区からの親子の参加がとても多く、地区の子どもが入る余地がなかった。地区の子どもが入れないのはダメだろうということになり、来年度は広報の仕方を変えることになった。行事をいろいろ企画しても、今の若いご家庭は、自分の家の行事を優先し、協力的でないので、つらいと育成会などから話が聞かれる。頑張っても、協力体制に難ありというところ。

久米委員

現在、公民館が協力してくれてとても助かっている。以前はPTAはPTAの行事、健全育成会は健全育成会の行事と単独で行事を行っていた。しかし、今は公民館や児童センターが協力してくれ、ちょっと人が足りないところをカバーしてくれていて、とても感謝している。

伊藤委員長

私が着目したのは、P7市民意識調査。協働活動の認知度が36.4%だが、これは社会福祉協議会の認知度4割とほぼ同じ数字。社会福祉協議会は災害の際の助け合いやボランティア活動の推進、市の支え合いの推進などを担っている。協働活動と似た活動を行っているが、認知度も共通していると感じる。ただ、年代によっても認知度は異なってくるのではないと思う。年代ごとの割合を見るなど様々な角度から見ていくことで、

打開策も開けるのではないか。また、だめだというのではなく、様々な角度から解釈していかなければならないと思う。

伊藤委員長

それでは、続いてP 8（2）本部の在り方について評価・検証に移る。
事務局から説明願います。

事務局（小池）

協働本部が導入され6年が経過した。現在名取市では2つの方法で本部を運営してきた。このまま統一せず協働活動を行うべきか、市として一つの方法にするべきか、いったん評価・検証を行った方がよいのではないかということになり、本部、学校、公民館に意見を聞いた。

P 8の表が取りまとめたもの。P 9にはそれぞれを選んだ理由をまとめた。

コーディネーターの負担、持続可能な運営を考えるとAがよいという意見や、住民の主体性や自治意識を高めるためにはBやCがいいという意見、地域の置かれている状況や特色を考えると統一すべきでないという意見、地域によって様々な意見があった。さらに、運営しやすい方法についても、地域ごとに違いがあることが分かった。

これらの意見を受け、教育委員会としては、現段階ではいずれか一つの方法に統一することは難しいと考えている。また、本部や学校、公民館で協議し、それぞれが納得した形で運営すべきであり、委員会はそれぞれをサポートしていくことが望ましいと考えている。

委員長

事務局から（2）本部の在り方について説明された。皆さんから意見をいただきたい。

久米委員

相互台のようなあり方もいい手ではあると思うが、担い手、地域コーディネーター次第だと思う。統一しない方がよいと思う。

橋浦委員

地域によってやりやすい方法がある。相互台がうまくいっているのは、実際にコーディネートしている職員が相互台公民館での勤務年数が長く、PTAもしてきた人だから。また、相互台は昔から立地的に孤立していて、地域が公民館を中心にいろいろなことが動いてきた。それが必ずしもすべての地域に当てはまるとは限らない。

洞口委員

私も統一すべきでないを考える。地域によって特色がある。当然、担い手も様々である。見つからない地域もある。相互台はうまくいっているとは思いますが、統一すべきではない。

佐々木委員

ぱっと見て、学校はA、本部と公民館はBとCに寄っているという印象がある。学校には負担感が多いのかなという印象を受ける。とはいえ、地域学校協働活動は学校が中心の活動なので、本部が学校から離れコミュニケーションが減るのはよろしくない。本部が学校にあるから、地域が学校に入っていきやり取りをしていけたのはあるだろう。Bで事務手続きに問題がないのであればBでもいいと思う。しかし、要件と言ったら乱暴かもしれないが、大切にすることを示してやっていくことが大切。コミュニケーションを保証していかなければならない。

矢澤委員

私も統一すべきでないと考える。そこに合わせたやり方でやれた方がいいと思う。

小沢委員

それぞれ軌道にのってきているのであれば、それを継続してやっていくのでいいと思う。

伊藤委員長

事務局がP 9で統一するのは難しいと掲載しているが、その地域の特色を生かすことを考えると、私も一つに絞るのは難しいと思う。特色とは一人一人の魅力、長所である。欠点のところを長所で補っていけばよい。欠点を解消する勢いのある長所を拠り所として持つことが大切である。

委員長

それでは、続いてP 10（3）その他 館腰小学校のコミュニティ・スクールについて。事務局から説明願います。

事務局（小池）

今年度から館腰小学校でコミュニティ・スクールの取組が行われている。今年度は全4回の学校運営協議会が開催された。メンバーは、館腰地区の契約会会長4名、地域学校協働活動の本部長および地域地域コーディネーター、民生児童委員、公民館長、有識者として尚絅大学の佐藤佳彦先生、館腰小学校校長の13名。毎回、とても良い雰囲気です話し合いがなされ、学校運営のために意見が出されていた。

成果としては、先生方全員との顔合わせや思いの共有がなされ、1年間の活動を経てどの先生も協議会のメンバーとの関係作りが図られた。先生方が教育課程の見直しを進め、学習内容が自校化され、館腰地区にマッチしたものになった。雷神山を子ども達が利用する姿を見て、地域の方が喜んでいて。毎年、学校が保護者へ学校評価アンケートを実施しているが、地域連携に関する項目や、開かれた学校に関する項目において、肯定的な回答をした保護者の割合が高くなったことがあげられる。

伊藤委員長

事務局から（3）その他 館腰小学校のコミュニティ・スクールの取組について説明

され。皆さんから質問・意見をいただきたい。

久米委員

館腰小学校の学校運営協議会の導入は、小学校からの要望で導入したのか。

事務局（小池）

学校運営協議会という仕組みがあり、名取市内では館腰小学校のみの導入。全国的には導入が進んでいる仕組み。

教育長

学校運営協議会は、国で全ての学校に設置を推進しているもので、法律的には設置が努力義務になっている。県内では全ての学校に導入をしている市町村もある。名取市では館腰小学校が初めての導入になる。今年度と来年度、館腰小学校でやってみて令和8年度から他の学校でも広げていこうと考えている。校長会などで導入してみないかと投げかけたところ、館腰小学校が手を挙げたため導入した。館腰小学校では、かなり今年度精力的に取り組んでいる。他の学校でもいずれ導入していきたいと考えているが、地域学校協働活動と同じで、学校ごとに特色があるので他の学校でも同じことができるかといったらそうではない。

伊藤委員長

令和8年度から全ての学校で導入すると何かに書いてあったように思うがどうか。

生涯学習課長

そういう予定である。

伊藤委員長

学校運営協議会は、校長が決める学校運営方針を了承したうえで承認したり、人事に関して関わったりまではいかないが、そういうことまできちんと話し合う協議会で間違いないか。

教育長

現在ある評議委員会は、学校運営について客観的な立場で意見を述べるものだが、学校運営協議会は、学校と一緒に学校の運営を担っていくという立場の協議会である。委員長のおっしゃる通り、校長がつくる学校運営方針を承認することも大切な役割の一つである。校長を中心にいろいろな話し合いをして、地域が外から意見を言うのではなく、地域も一緒に学校運営していく視点で関わってもらうものである。また、人事についても意見を言うことができることになっている。個の先生の異動に関するものではなく、例えば、うちの学校は英語に力を入れたいので、英語の堪能な先生をもっと増やしたらどうかといったような人事に関わる意見を述べることができる。実際に取り組んでいる学校によっては色々な話題があるとは思いますが、先ほど委員長のおっしゃったとおりの会で考えている。

委員長

学校と地域が一体化とはいかなくても、同じような方向に進むような会だと思う。他に何かないか。

佐々木委員

館腰小学校は、先行事例ということで、正直かなりやっているという印象。校長の武田先生は尚絅学院大学でもお世話になっているので色々話は聞く。これから後に始まる学校のプレッシャーにならないようにすることが大事。協働本部と学校運営協議会が並走していくことになると思う。部局が違うので、先行事例の館腰小学校の学校運営協議会がどう協働本部と並走していったのかなどの情報があるとよい。重複しているところもあると思うが、役割分担をどう位置付けるか整理していくことが必要かと思う。協働本部と何が違うのか、重なる部分もある、などの見通しをもちながら取り組んでいける。

教育長

佐々木委員のご指摘いただいたところは、私も今後協議会を導入していく上での課題だと感じる。館腰小学校の学校運営協議会は、それ自体が中心となって色々な活動をどんどん展開している。ただ、地域学校協働本部もあるので、実質的に活動するのは協働本部やPTA、学校独自の活動になる。それら全体をどういう方向にいくか議論していくのが学校運営協議会の主たる役割だと思う。館腰は非常に学校に協力的な地域である。皆さん学校のためにと燃えている。館腰小学校のやり方を全てに広げるのではなく、基本的な考え方を学校で確認したうえで、広げていくことになる。ただ法的な取組のイメージはあるが、学校の独自性も大切にしていかなければならないところが難しい。佐々木委員の意見は他の学校に展開していくうえで考えていかなければいけない大切なポイントだと思う。

伊藤委員長

それでは、進行を事務局にお返しする。

5. 閉会

事務局

今年度の運営委員会は本日で終了となる。2期2年の任命期間ということで一区切り。様々な視点からご意見、ご提言いただき、感謝する。以上をもって、地域学校協働活動運営委員会を閉会する。

15 : 15 終了